

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 事業市民説明会 (3回目)	日時	令和5年11月3日(金) 14:00~16:20	場所	東小金井駅開設記念会館(マロンホール) ギャラリー
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	68人(うち市議会議員7人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A) 市長案には反対。見直し案は23億円安くなる。市長案と見直し案の比較検討して欲しい。</p> <p>(市民B) 現在の広場は、子供たちが遊んでいる。高齢者にとっても、ベンチを置いて会話ができる明るい広場にしたい。市民が気軽に来れて、誇らしく感じることができる、南側に面した広場を確保して欲しい。 (庁舎建設等担当部長) →本庁舎の駐車場は900㎡あり、現在設計しているさくらひろばは840㎡ある。3,000㎡にはならないが、広げられないか検討している。広場の位置については、H23、H24年度に、基本計画で市庁舎のあり方を検討しているが、緑中央通りに面した位置としており、これに沿った形で設計している。</p> <p>(市民C) 見直し案を採用しなかった理由は? (庁舎建設等担当課長) →協議会や市議会でも見直し案は提示されたが、前提条件を抜本的に変更した場合の一案であると認識している。現設計は基本設計のプロポーザル条件を踏まえたものであり、設計を大きく見直す場合、前提条件を変更したうえでプロポーザルからやり直さなくてはならない。前提条件を踏まえておらず、詳細な検討をしていない案と比較できない。</p> <p>(市民D) 庁舎が免震構造で福祉会館が耐震構造となっているが、変えられないのか。見直し案は両方とも免震構造としている。免震と耐震構造の複合は大丈夫か。 今の設計で、広場を広くする検討をするといっても、せいぜい1,500㎡も取れないが、見直し案なら3,000㎡取れる。見直し案と比較検討できない理由は。 (佐藤総合計画)</p>				

→耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式。福祉会館は通常建築基準法の係数 1.25 でよいところを、係数 1.5 の強度としており、庁舎と福祉会館の耐震強度は同じ。ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には、安全確認後、外に避難してもらう考えになっている。巨大地震が来たときには、1～2 か月ほど余震がある。余震が続いて市民が避難生活をしている間に、福祉会館等庁舎以外の施設は、市民サービスをストップするのが通常である。

(市長)

→現設計は福祉、協働、交流のまちづくりの拠点となるものであり、市政進展のための施設となり、現設計でよいと考えている。民主的プロセスを経ていること、これまでの経過、早急に建設すべきことを踏まえると、実施設計の再開段階において見直し案を検証する考えはない。

仮に、案を 1 から見直すとなると、条件設定、基本計画、プロポーザルから、全てやり直しをする必要があり、設計や着工まで何年かかるかわからない。

第二庁舎の賃料も年間 2.3 億円かかる。30 年近くかけて総額 70 億円も払っている。本庁舎はトイレの天井に穴も開いているほど、危険であり、庁舎建設が延期となると、本庁舎も改修が必要になり無駄なお金がかかる。新庁舎建設が進まないことにより市政が停滞する。跡地活用、組織改正、職員のパフォーマンスの向上等が進まない。また、時間が経つほど物価高騰の懸念もある。延びるほど条件が悪くなる。

(市民 E)

福祉会館もある複合施設として、駐車台数が足りないのではないかと。臨時駐車場 23 台を常設にする必要がある。広場も大事だが、市庁舎として機能上必要なものを優先して欲しい。庁用車 50 台は全て地下に停められるのか。福祉会館利用者と庁舎利用者で駐車場の利用時間が違うので足りなくなると懸念する。

(企画政策課主査)

→H29 年 建設計画調査 126 台 (公用車 48 台 + 付置義務台数 58 台 + 利便性向上目的 20 台) と設定。

R 1 年 基本設計 124 台 (本庁舎駐車場等の利用状況も勘案)

としていたが、基本設計後のパブリックコメントで広場を増やす要望が多かったため、

R 3 年 実施設計 109 台 (公用車 41 台 (地下) + 地上 45 台 + 臨時 23 台) に見直した。

今後、この台数は確保しながら、広場を広げられないか検討をする。また、駐車場だけではなく、公共交通機関のあり方も含めて検討する必要がある。

(市民 F)

リサイクル施設の前提条件が変わった時点で、条件見直しをしなかったのか。

(庁舎建設等担当課長)

→既に、建設計画調査において、リサイクル施設の移転の有無それぞれの場合で施設配置を検討したが、施設配置の結論は変わらなかった。施設配置や施設規模の前提条件を基にプロポーザルを実施し、設計者を選定した。施設配置の条件は変わらない。

(市民 G)

免震構造と耐震構造の体感としての違いは。

(佐藤総合計画)

→耐震構造は、地面に繋がっているのだから、地震の揺れと同じように揺れる。建物内部では家具や照明も揺れるので固定が必要。免震の場合はゴムの上に載っており、ゆっくりと揺れ、家具などが倒れにくい。強度については、想定地震以下であれば、耐震構造だけ壊れるということはない。

(市民 H)

発注方式について、設計・施工分離か、一括か教えて欲しい。また、監理の事業者は決まっているのか。

(庁舎建設等担当課長)

→設計と施工を分離する方式としている。

監理の事業者は未定。

(市民I)

見直し案は北側に駐車場、南側に広場を配置し、シンプルな建物形状となっている。見直し案に賛成。工事費やメンテナンス費も安く済む。考え直してもらいたい。

(庁舎建設等担当課長)

→直線状の案は建設計画調査時に検討済みで、そのうえで設計に入っている。コストについては、同じ面積であれば、建物形状によって、コスト差はあまり生じない。

(市長)

→見直し案との比較検討はできない。庁舎が進まないことで他のいろんな事柄が停滞している。大きな組織改編もできない。また、庁舎が分散していることで年間 2,000 時間無駄になっている。跡地活用も進められない。第二庁舎の賃料は年間 2.3 億円掛かる。26 市でこんなひどい庁舎は小金井市だけ。やり直すといつになるかわからない。現設計を基に早期建設を目指したい。

(市民J)

福祉会館屋上に人工芝が張られると聞いたが、マイクロプラスチックの問題があり、人工芝は見直して欲しい。

また、新庁舎が完成したら、リサイクル事業所機能は敷地内に戻して欲しい。

(福祉会館建設等担当課長)

→人工芝については同様の意見が議会でもあり、引き続き検討したい。

(庁舎建設等担当部長)

→天然芝は管理をどうするかの問題があり、保留状態になっている。

(市民K)

庁舎建設が遅れたのは市民のせいではなく小金井市当局のせい。

浸水するというのに、地下駐車場に頼るのは適切か。責任追及がしやすいように設計施工一体で行った方が良い。

(庁舎建設等担当課長)

→DB（設計施工一括方式）について、当初、DBにしたいと議会に提案したが、入札参加者が限られる問題や、コストが不明瞭になるので公共工事発注には適さないと判断され、分離方式とした経過がある。

また、浸水レベルについては、1階床、地下駐車場は浸水しないような高さ設定としている。なお、ハザードマップ改定による浸水は、下水が処理できないことによって雨水が溜まる内水氾濫となっており、年超過確率 1,000 分の 1 以下の降雨量を想定している。

(市民L)

見直し案に賛成。現設計は広場が小さい。一直線の方が安くできる。

(庁舎建設等担当課長)

→同じ面積であれば、建物形状によって、コスト差はあまり生じない。また、免震構造の面積が増えればコストは高くなる。

(市民M)

現設計は、人、バス、車の動線が交錯するので、再検討してほしい。また、駐車場が 2 つに分かれると、動線が 2 つになり、事故が起こるリスクがあるので検討をお願いする。

(庁舎建設等担当課長)

→広場を含めた外構の再検討の際に、安全性に配慮して検討したい。

(市民N)

メンテナンス費についても将来の物価上昇を考慮しているのか。大規模修繕は何年後を計画しているか。

(庁舎建設等担当課長)

→物価上昇の考慮は、建設費のみで、メンテナンス費の物価上昇は考慮していない。大規模修繕の時期は後日回答する。

(市民O)

1964年の東京オリンピックは1959年に開催が決まり、5年でやりきった。市庁舎はH21年の基本構想から14年が経過し、時間がかかり過ぎている。物価上昇を踏まえると、早く建設したほうがお金の無駄にならないと思う。

(市民P)

通常、建設費用よりも維持管理費の方が高くなる。人工芝から天然芝にすると植木屋さんにメンテナンスを頼むことが必要で維持費がかかり、両方のメリット・デメリットを天秤にかけての判断が必要。L字型の形状を少し変えればメンテナンス費が抑えられるかなど、メンテナンス費軽減にも留意して検討して欲しい。

(市民Q)

見直し案を検討して欲しい。

(市長)

→今回は実施設計を中断していたのを再開することの説明会である。

実施設計というのは、基本設計から、施工者に伝える図面を作成する段階であり、見直し案を検討する段階ではない。構造に関係するところは変更できないが、人工芝の話など、検討可能なものは検討したい。

(市民R)

市民協働の拠点が市の中央にできるのは良い。広場を活用した市民協働の取り組みは何か考えているか。

(市長)

→今現在、具体的な話はない。市民協働の在り方検討委員会において11年前に答申を提出しており、市としては市民協働を進めて行く考えだが、現在、市民協働支援センター準備室ができており、市民協働支援センターができた際には、答申の内容を進めて行きたい。

(市民S)

本日、設計案に問題がないことを知ることができた。ジャノメ跡地購入から30年以上経過しており、現設計に基づき、市庁舎をできるだけ早く建設して欲しい。

駐車場の数は、福祉会館と複合されると足りない懸念もあるので、見直せるのであれば、検討して欲しい。

(市長)

→駐車場については検討していきたい。

(市民T)

小学校では校庭が天然芝となっていて、小金井市は自然を意識しているのだと思っている。環境に配慮しているのであれば、庁舎の作り方は変わってくると思う。駐車場を減らせないなどの理由で、広場という自

然の象徴が減ってしまうのであれば、新庁舎の魅力が減ってしまうと思う。

(市長)

→広場の確保に関して、屋上庭園は、広場からアクセスできなかったが、外からアクセスできるように変更した。人工芝についてはマイクロプラスチック等の懸念があるのは承知している。メンテナンス等を考えて人工芝としているが、改めて検討したい。

(市民U)

見直し案に近づけるような変更は可能か

(市長)

→構造に関わる変更はできない。

(市民V)

公共施設マネジメント基金が26市中26位となっている。学校、公民館など、将来建て替えが必要な建物もたくさんある。シンプルで安い案がよい。今からでも数十億安くなるのであれば、見直しをするべき。将来、自分の子供たちに借金を負担させるのは反対である。現行案には反対。

5 閉会

— 以上で、閉会 —